

ユーザーエクスペリエンスの最適化を目指して

東京電機大学高校 2年
石川 陽己
狩野 航希
田中 麟太郎
古谷 琢人

考察

近年、バーチャルリアリティ（VR）、拡張現実（AR）、およびミックスドリアリティ（MR）などの新しい技術が急速に発展しており、これらの技術は情報の表現と伝達に新たな可能性をもたらしています。本研究では、バーチャル環境における情報デザインとコンテンツの最適化方法を探求し、ユーザーエクスペリエンスを向上させることを目的とします。バーチャル空間におけるデザイン原則の解析: 現在のバーチャル環境におけるデザイン原則を明らかにし、情報の効果的な伝達を支援する要因を特定します。新技術の活用とデザイン手法の提案: VR、AR、MRなどの最新技術を活用し、これらの技術が提供する新たなデザイン手法を探求します。これにより、情報を魅力的かつ効果的に提示するための新しいデザインパラダイムを提案します。ユーザーエクスペリエンスの評価と改善: 提案されたデザイン手法を実際のユーザーエクスペリエンスに適用し、定量的および定性的な評価を行います。得られたフィードバックをもとに、デザイン手法を改善し最適化します。

Primary Sources

バーチャル世界で可能な新しい広告デザイン インタラクティブ体験: バーチャル世界内に設置された広告看板が、ユーザーと対話できるようになることを考えました。ユーザーはその看板をタッチ、操作、声で制御し、広告メッセージを探索でき、また、看板はユーザーに質問を投げかけたり、ゲーム要素を組み込んだりして、興味を引くようになります。これによってユーザーはよりダイレクトに広告の意図しているものを受け取ることができると考えています。

Examples

VR・AR技術で実現する時間や空間を超えたサービス VR・AR技術は、障がいを持った方や病院にいる方に対してなど、よりインクルーシブにサービスを提供できる可能性をもたらします。例えば、目の不自由な方が美術品を見るという事例や、聴覚障害者が舞台鑑賞を楽しんだり、病院の患者さんがベッドの上から旅をしたりする事例があります。逆の視点で見れば、企業側にとってはテクノロジーを使うことでこれまでサービスの対象外だと考えられていた方々に対してもサービス提供ができるようになります。今回、新型コロナウイルスが蔓延したことで、多くの国で人の移動が制限されました。仕事や学習、遊びなどをすべて家でやることが求められた人も多いかと思います。今回のコロナ禍だけではなく、今後も非常事態が発生し、行動が制約される可能性は大いにあります。そんな状況下では、場所を問わないVR・AR技術を用いたサービスが私たちの生活を豊かなものにしてくれます。

結果

(結果) VR・AR技術は、障がいを持った方や病院にいる方に対してなど、よりインクルーシブにサービスを提供できる可能性をもたらします。上記で挙げた、目の不自由な方が美術品を見るという事例以外にも、聴覚障害者が舞台鑑賞を楽しんだり、病院の患者さんがベッドの上から旅をしたりする事例があります。VR・AR技術の進展とともに、よりインクルーシブな社会が促進されます。企業側にとってはテクノロジーを使うことでこれまでサービスの対象外だと考えられていた方々に対してもサービス提供ができるようになります。

Secondary Sources

バーチャルマーケットなどといったものはコンテンツごとに分けられていてそれぞれ興味がある人が集まりやすくなっているためその場所のコンテンツに合わせた広告をだせば深く知ってもらえると考えました。例えば、アバターを自分自身にできれば自分に似合う服をバーチャル世界で探することができます。また、自分の部屋などをバーチャル世界に反映させれば自由に模様替えを設計できるので。

Examples

VR・AR技術が業務形態に与える変化 日本は労働力不足が深刻な社会問題となっています。ARによる作業指示や作業補助が特に有効なのは、非熟練作業者の戦力アップとなります。人手不足をITの力でカバーしようという動きは、特に建設業や物流業でARの業務利用が進んでいることにも見て取れるでしょう。また、本格的な外国人材の登用が進む中、同時翻訳技術とAR技術の進化によって作業指示を母国語で行うことができるようになったことは、非常に大きな変化と言えるのではないのでしょうか。

